



女性組織を中心とした活動再開の取組

都市的地域

ざるうち

うつのみやし

申内環境保全会（栃木県宇都宮市）

- 本地域は、宇都宮市の東部に位置し、ほ場整備後の恵まれた条件、環境の中で営農を行っているが、農業情勢の変化が著しく、他産業への兼業化や非農業者の混住化が進行。
- 古き良き農村の自然環境を守っていくために、農地・水・環境保全向上対策（以下「農地・水」という。）を活用し『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、農業用施設の補修や地域住民を巻き込んで植栽などの共同活動を実施。（活動期間：平成20年度～平成24年度）
- これまでは、地域の農地維持作業は農業者個人が行っていたが、農地・水の取組を進めていく中で、共同作業による農業用施設の補修が十分に実施できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったこともあり、活動を一旦休止することとなった。
- 農家、農村地域を守っていくには、やはり共同活動を再開する必要があるだろうという機運が女性組織を中心として高まり、多面的機能支払交付金による『申内環境保全会』を設立（活動再開：平成27年度）し、地域コミュニティの強化や農地の保全に努めている。

活動休止した経緯

- 当地区は平成10年度にほ場整備が完了し、10年くらい経過した頃、農業用施設の老朽化や水路の土砂堆積が目立ち始めたため、『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、施設の補修などに取組。（平成20年度活動開始）
- 5年間活動したものの、施設の補修が十分に実施できたこと、植栽など地域の美化活動が継続できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったことから、活動を一旦休止。（平成24年度活動休止）



農用地を利用した景観形成活動（彼岸花）

活動を再開した理由

- 活動休止期間中も地域の美化活動や草刈り、堀浚いなどの共同作業は行われたものの、参加者は限定的。
- 農地・水の時代から「女性では別の取組ができるのでは」、との声があったが、実現に至らず活動休止となったこと、また、以前よりも事務手続きが簡素化されたことなどから、JAの女性組織「みどり会」（女性9名）を中心に活動を再開。（平成27年度活動再開）
- 活動再開後、地域内のコミュニケーションがより取れるようになり、非農業者を含め、さらに地域をきれいにしようという意識が醸成。



女性を中心とした取組（景観形成活動）

【地区概要】

- ・取組面積 51ha（田51ha）
- ・資源量 開水路7.5km、農道6km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、婦人会、小学校
- ・交付金 約3百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同）

取組の効果及び活動展開

- 活動への参加が強制されないこと、女性の役員が多く、参加しやすい雰囲気となったことから、共同活動の参加者が増加。
〔 彼岸花ロードの草刈りの
参加人数 H27 19人 → H28 25人 〕
- 小学1年生による生き物調査を実施してきたが、3年生による農業体験学習を新たに開始。また、これまで1校だったが、2校に増やすなど食育の推進に寄与。
- 子供会との交流活動として、収穫体験（トウモロコシ、サツマイモ）を実施。
〔 参加人数 H27 43人 → H28 69人
※親を含む人数 〕
- 地域農業や活動組織の役員となる後継者を育成するとともに、営農集団の設立など将来にわたる持続可能な地域農業を検討。



子供会との交流会



広域化による担い手の明確化・農地集積に向けた推進

めいわ 明和地域広域協定（群馬県明和町）

- 町では、農業者が年々減少しており、地域資源（農地、農業用施設等）を継続的に守ることが困難となっていた。この中で、平成19年度から9活動組織において「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み始め、平成27年度には12活動組織となり、着実な定着が図られてきた。
- 各活動組織は、地区の自治会と一体となり、地域資源の維持保全、景観保全のための植栽活動や地区内美化運動等を推進することにより、集落機能の活性化や伝統芸能、コミュニケーション作りを目指している。
- さらに、活動計画には地域住民との意見交換等の開催を位置付けており、地域農業の将来と課題についても話し合いを進めている。
- 平成28年からは、既存組織に未実施だった4地区も取り込み、地元NPOに事務処理の一部を委託し、町単位の広域活動組織として活動を実施。

【地区概要】

- ・取組面積835ha（田433ha、畑402ha）
- ・資源量 開水路198.6km、農道233.7km
- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会 等
- ・交付金 約56百万円（H29）

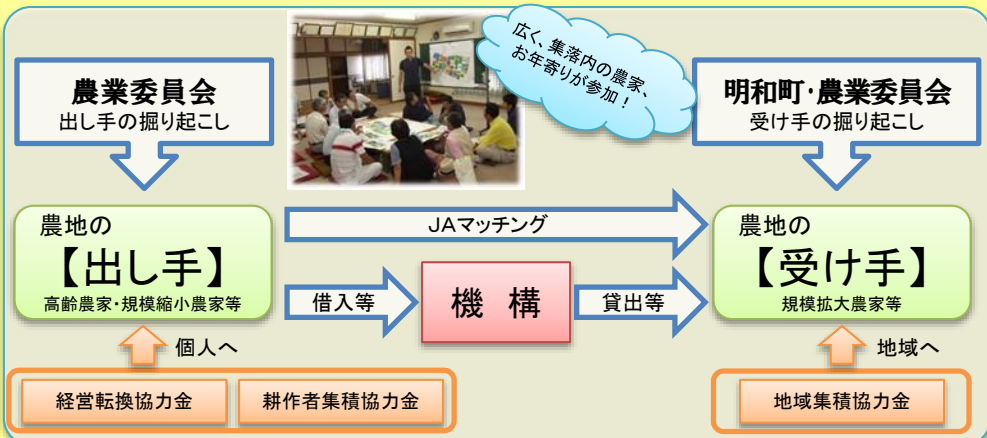
（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

担い手の明確化・農地集積

- 集落内の全農用地において本制度に取り組んでいる地区では、活動組織の話し合いの場で、集落全体に係る議題について検討できる。
- 担い手への農地集積を進め、地域農業の持続的発展を目指す。
- 担い手への農地の集積・集約は、農地中間管理事業の活用。

取組内容

- 矢島地区では、活動組織の話し合いの場を通じて、農地中間管理機構を事業主体とする農地集積に合わせた簡易ほ場整備（区画拡大）の実施を検討。



取組の効果

【矢島地区】

- 簡易ほ場整備エリア集落内の全農用地が多面的機能支払に取り組んでいるため、活動組織の話し合いの場で、集落全体に係る議題について検討できた。
- この中で、H27では簡易ほ場整備エリア12haのうち、3.2haの区画拡大を実施。



【今後の取組】

- 町内の各集落で、矢島地区と同様に担い手への農地の集積・集約を実施予定。

都市住民との交流など地元の活性化につながった農村環境保全活動

はやくわ おだわらし
早川の自然を楽しむ会（神奈川県小田原市）

- 本地区は、豊臣秀吉が小田原城攻めで築造した一夜城に隣接し、この歴史的資源を活用した都市住民との交流活動を通じて地域の活性化を目指しており、毎年2回の遊休農地を活用した花摘み体験のイベントを中心に農道沿いの植栽（ツツジ、サツキ、桜など）といった四季折々の花をテーマに農村環境の改善に取り組む。
- また、県内有数のみかんの産地として知られる本地区の農業を次世代に残していくため、柑橘類の生産基盤となる農道の管理を中心とした農地維持や資源向上（共同活動）を実施する。

【地区概要】

- ・取組面積 45ha（畑 45ha）
- ・資源量 農道 17.5km
- ・主な構成員 農業者、非農業者
（土地改良区、JA青壮年部、早川活性化推進協議会）
- ・交付金 約1百万円（H29）
農地維持支払
資源向上支払（共同）

地域の現状



- 主要作物: 通年栽培
早生、普通温州(藤中、青島、大津)、晩柑類(湘南ゴールド、デコボン、夏みかん)及び花卉、植木の栽培
- 柑橘の生産が年間を通して盛んな地域であるが、海辺の集落から急傾斜の続く樹園地へ通作道が何本もあり、農道役員を置き、集落の共同作業で草刈りや豪雨後の点検などの維持活動を実施
- 事業導入以前は、維持管理費用は、すべて農家の自費

取組内容



- 農道や樹園地法面の点検を実施し、草刈りや清掃などの適正管理を実施
- 異常気象時の見回りを実施し、農地や農道の応急措置などを実施
- 都市住民との交流会を通して、地域の活性化の推進と農業農村の有する多面的機能の理解促進活動を実施

効果、課題、今後の展開

- 平成19年度から本事業に取り組んでおり、活動の進展にあわせ取組面積を拡充

H19	H25	H28
28ha	35ha	45ha

遊休農地の発生抑制面積が6割増加

- 土地改良区、JA青壮年部、地元で組織する早川活性化推進協議会と連携



- 遊休農地を活用した農村環境保全活動にて、コスモスやポピーの摘み取り等を実施し、都市住民との交流を図り、地元の活性化を推進



(10, 3月開催、約2,000人来訪)

遊休農地を活用した観光・都市農村交流



生態系保全活動を契機とした地域振興

都市的地域

さかづら

さと

うつのみやし

逆面エコ・アグリの里（栃木県宇都宮市）

- 本地域は、宇都宮市の中心市街地から北方約10kmに位置する農村地帯。地域住民の混住化・高齢化、周辺地域の開発が進行。
- 地域内に設置されたフクロウの巣箱で、産卵が確認されたことを契機に、地域をあげてフクロウを保全する機運が向上。このため、H19年度に組織を設立し、農地・水・環境保全向上対策を活用し、フクロウをシンボルとした生態系保全活動を開始。
- フクロウの保全活動を契機として、農産物のブランド化に繋がったほか、当地域を舞台として、生態系に係る学術研究も活発化。

【地区概要】

- ・取組面積 123ha（田 123ha）
- ・資源量
開水路20.2km、パイプライン3.2km、農道25.2km
- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会、学校 等
- ・交付金 約5百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、水田の広がる農村地帯であるが、宇都宮市街に近いことから、混住化が進み、農家人口が年々減少し、農地・農業用水等の適切な保全管理に支障。
- 平成17年に、自治会の住民が属するNPO法人（自然活動団体）がフクロウの巣箱を設置したところ、翌年産卵が確認され、またたく間に「逆面の自然を守る、地域をあげてフクロウを守りたい」という機運が向上。
- このため、平成19年から農地・水・環境保全向上対策を活用した、地域資源の保全活動を開始。

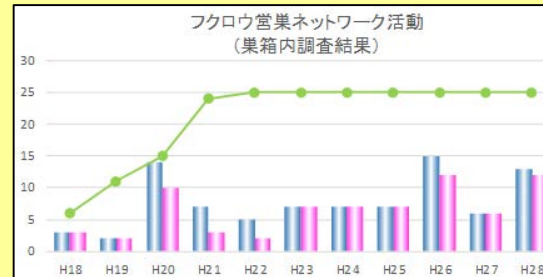


巣箱設置

水路の蓋掛け
（カエル蓋）

取組内容

- フクロウを育む豊かな生態系を有する里として、フクロウの巣箱設置やエサ場の環境整備、希少種の調査・監視と保護活動等を実施。



産卵数・孵化数の推移

- これらの活動により、フクロウのエサ場を守るための減農薬・減化学肥料に取り組む農業者もでてきており、生産された米は、H22年度に「育む里のフクロウ米」として商標登録されるまでに波及。

取組の効果

- 地域内でフクロウが継続的に営巣し、里山の豊かな環境が保全。
- 地域ブランド農産物「育む里のフクロウ米」として付加価値を高めて販売。
〔 減農薬等への取組面積 平成28年度 64 ha
通常米の販売価格(1,350円/5kg)
→フクロウ米の販売価格(2,500円/5kg) 〕
- 地元大学と連携し、フクロウの生態や地域の生態系に関する学術研究が活発化。



フクロウの赤ちゃん



育む里のフクロウ米



生産緑地における稲作農家を中心とした取組

都市的地域

はねようすい

はむらし

羽用水保全会（東京都羽村市）

- 本地域は、羽村市西部の多摩川左岸に位置する市内唯一の水田地帯であり、水利施設等の保全管理は用水組合が行っていたが、農業者の高齢化と相まって、施設の老朽化等が進み、維持管理に苦慮していた。
- 本交付金の取組により、施設の点検、水路・農道の草刈り、泥上げ等の保全活動を持続的に行える体制が整い、都市的地域の生産緑地における水田農業の持続と、水田を活用した農業体験やチューリップまつりなどの取組を支えている。

【地区概要】

- ・取組面積 7ha（田6ha、畑2ha）
- ・資源量 開水路1.4km、農道1.2km
- ・主な構成員 農業者 41名
- ・交付金 約20万円（H29）

農地維持支払

活動開始前の状況や課題

- 本地域の水田は、地域の小学校の農業体験学習や、収穫後のチューリップ栽培、大賀ハスの植栽池などに利用され、観光資源として年間を通じて学びや交流の場を提供。
- しかし、用水組合の農業者の高齢化や農業水利施設の老朽化等により、維持管理作業や費用の負担が増大し、施設の保全管理に苦慮。また、営農の継続にも不安があった。

幹線水路



羽村市内の唯一の水田地帯

取組内容

- 平成27年度から本取組により用排水路の泥上げ、畦畔や用水法面の草刈りのほか、遊休農地の発生状況の把握、防止のための取組等も開始。また、本取組により、余力ができた用水組合は水路補修を直営で施工。
- 以前から、継続的に取り組まれてきた農業体験学習やチューリップまつり等の観光イベントにも協力。



活動組織による水路の草刈り



用水組合による補修作業

取組の効果

- 農地や農道、農業水利施設が適切に保全管理されることにより、農業の持続性と、様々な観光イベントの継続性が向上。
 - 〔 農業体験学習：参加者延11,943名（H28）
チューリップまつり：来場者約7万人（H29） 〕
- 地域に密着した活動により、次世代へと文化・風習を受け継ごうとする機運が向上。
- 本取組により農業が継続されることで、市民・地域企業・市外を含むボランティアがサポーターとなっている観光イベントの更なる発展も期待。

チューリップオーナー（H28）
個人：127人
団体：61団体
会費：153万円
植付等ボランティア（H28）約1,700人



チューリップ祭り



農業体験



里山復元による「憩いの場」づくり

しかだやましゅうへん

鹿田山周辺広域協定（群馬県みどり市）

- 群馬県東南部、渡良瀬川の大間々扇状地中央に位置する鹿田山中腹に広がる標高100～200mの畑地帯である。
- 近年、混住化や高齢化の進行により地域資源の保全管理に係る共同活動が低調化。
- 多面的機能支払交付金において、荒れた畦道のフットパス整備と耕作放棄地への菜の花の植栽を行うことにより、集落の協働意識を醸成。
- 平成29年度より、「鹿田山環境保全ネットワーク」、「上鹿田むらづくり推進協議会」、「大間々用水と地域農業を守る会」の旧3組織により「鹿田山周辺広域協定」を設立し広域活動組織となる。

【地区概要】

- ・取組面積 343ha（田75ha、畑268ha）
- ・資源量
開水路37.0km、パイプライン82.0km、
農道162.6km、ため池5箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、水利組合、自治
会、JA、土地改良区、老人会等
- ・交付金 約18百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 元々は桑畑地帯であり、県営かんがい排水事業を契機に露地栽培（野菜）が進んだが、施設園芸のウエイトが高まり近年では農地余りの傾向が見られる。
- 急傾斜地など耕作条件の悪い桑畑は、伐根されないまま耕作放棄され、荒れ地化していたため、ゴミの不法投棄が頻発するなど耕作放棄地の解消が地域の緊急課題となっていた。



- 荒れ果てた畦道をフットパス整備により、集落の協働意識を高めることを第一段階とし、それから景観植物の植栽による耕作放棄地の解消と鹿田山の景観保全に繋げることとした。

取組内容

フットパスの整備



（鹿田山環境保全ネットワーク）

- かつて農家同士がお茶休みや話し合う場として利用していた畦道を復活し、集落コミュニケーションの形成に貢献している。

遊休農地の利用



（上鹿田むらづくり推進協議会）

- 多面的機能支払交付金の資源向上活動により、遊休農地を利用し、ひまわりを育て、「ひまわりの花畑まつり」を開催している。

取組の効果

- 平成18年度より取り組んできたフットパス整備は、全長4.1kmとなり、地域住民などの憩いの場として賑わっている。

ひまわりの花畑



（上鹿田むらづくり推進協議会）

- 「ひまわりの花畑まつり」には多くの来場者が訪れ、大いに賑わっている。また、秋に咲くひまわりは珍しいため、インターネットでの口コミも広まり、まつりの期間以外でも多くの観光客が訪れ、みどり市の観光地の一つとなっている。
平成28年の来場者：約24,000人